

(1)生徒の体力の現状

○男子において、県平均と全国平均を上回った種目は、反復横跳び、50m走、20mシャトルランの3種目であった。
○女子において、県平均と全国平均を上回った種目は、立ち幅跳び、50m走、20mシャトルラン、長座体前屈、反復横跳びの5種目であった。
○男女別に県平均と全国平均を上回っている種目をみると、俊敏性や持久力は平均的に非常に高い記録となっている。
●男子において上体起こし、握力、立ち幅跳びは平均を下回っている。筋力に大きな課題がある。その中でも上体起こしは県平均から大きく下回っている。
●女子では上体起こしが県平均を大きく下回り、男子同様に筋力に課題がある。
●男女とも、筋力、敏捷性の面で県平均を下回る種目があり、大きな課題である。

(2)令和元年度の具体目標の達成状況と課題

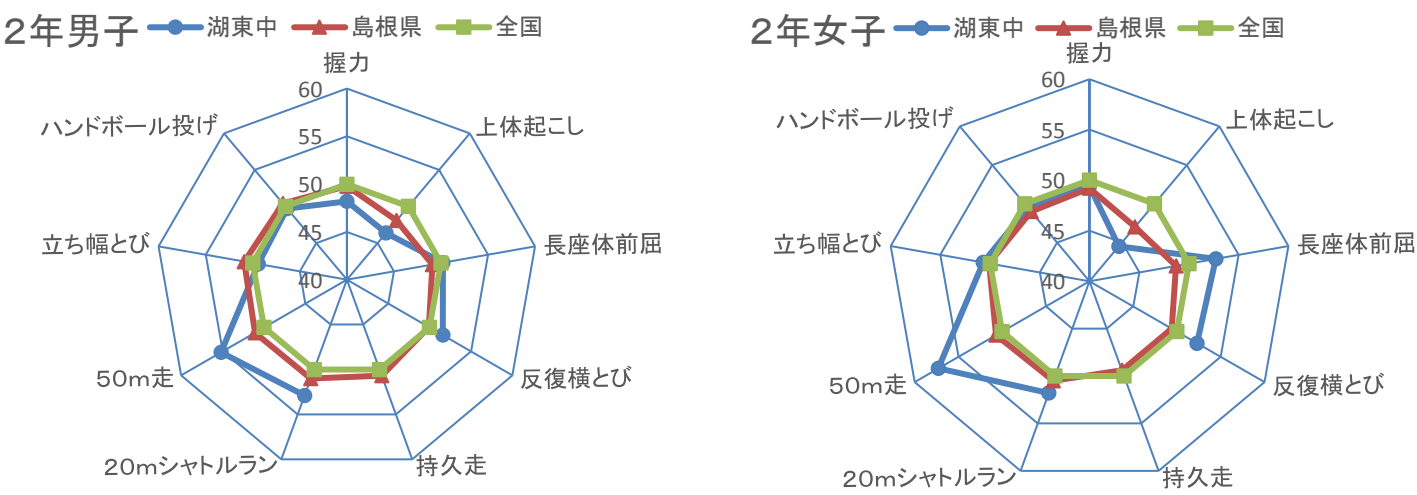
○年間を通し、計画的に体幹トレーニングを実施するほか、敏捷性を高める運動や持久力を高める運動を継続的に取り組んだ。
○新体力テストでは、自己目標を事前に設定する時間を設け、新体力テストに向け意欲の向上を図る。
○ICTの活用を積極的に進めた。
●体育の授業改善をすすめたが、個別指導の充実を図ることが難しかった。ICT活用をもっと進めていきわかりやすい授業の実施を目指したい。
●小中一貫教育で取り組むチャレンジ週間で、メディア接触時間や食事の様子を調査するなど、内容の更なる充実を図るとともに、家庭への啓発を推進することができなかった。来年度進めていきたい。

(3)令和2年度の取組【対策】

- ①学校における取組
- ・年間を通し、体育の授業や部活動での体幹トレーニングの実施や筋力を高める運動に継続的に取り組む。
 - ・体育の授業改善を進める。特にICTを積極的に活用し、理解を深めるわかりやすい授業を実施する。
- ②地域や家庭との連携による取組
- ・小中一貫教育で取り組むチャレンジ週間で、メディア接触時間や食事の様子を調査するなど、内容の更なる充実を図るとともに、家庭への啓発を推進することを継続。
- ③体力向上をめざした生活習慣の確立、食育推進の取組
- ・新体力テストの結果を振り返り、日常生活で運動に取り組む習慣の確立に向けた個人プログラムの設定と実践に向けた取組を継続。
 - ・保健授業(運動と健康、食生活と健康)や家庭科の献立学習などの教科学習や学校保健委員会等で食育の推進を継続。

調査実施者数(人) 1年(男子55・女子59) 2年(男子46・女子56) 3年(男子46・女子51)

(4)2年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



(5)全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査 2年生意識調査の結果

(体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)

